CSR

特集：社会から愛される工場を目指して

1 古河新工場の建設および稼動にあたって

日野自動車は2012年5月より、茨城県古河市で新工場の稼動をはじめました。
古河工場のある名崎工業団地周辺は、農業を中心に発展してきた地域であり、つくば山系や利根川水系を従える、自然に恵まれた地です。
この豊かな自然との調和を目指すために、『ＨＩＮＯ基本理念』および、『日野地球環境憲章』を踏まえて、企業として、「社会から愛される工場」をスローガンに、環境活動に取り組んできました。

- HINO基本理念
- 日野地球環境憲章

社内には早期から「工場建設プロジェクトチーム」を立ち上げ、工場建設にともなう、環境の変化に配慮するため現地調査をもとに対応策を考え、地域住民の皆さまに、ご理解をいただく活動を実施してまいりました。
なかでも、地域の次世代を担う子供たちに、交通安全や環境保全の大切さを伝えることに注力してまいりました。
今後も、このような活動を通じ、地域住民の皆さまと協力して持続的な改善に努めることが古河工場で働く全従業員の願いです。

工場概要

所在地	茨城県古河市名崎1番地
敷地面積	約66万㎡
操業開始	2012年5月
生産品目	KD部品（現在） 大型・中型トラック、ユニット部品（予定）

2 地域住民に配慮した工場づくり

日野自動車が地域住民の方々に受け入れてもらうため、地域住民に『日野自動車』そのものをご理解いただく活動を足がかりとしてまいりました。

具体的には、工場建設前や稼動開始前などの節目ごとに 地域説明会を開催するほか、周辺自治会役員の皆さまに、実際に 日野工場および日野オートプラザをご見学いただき、トラック工場の現場や日野自動車の歴史に触れていただきました。

それらが現在も継続している「地域住民に配慮した工場づくり」につながっております。

古河工場における取り組み一覧表

層別	取り組み事例
地域貢献に向けた取り組み	工場周辺道路の整備について行政への働きかけ実施 （車道・歩道の分離、信号・歩道橋の設置、グリーンゾーン[緩衝帯]整備）
	近隣 小学生・中学生を対象とした交通安全教室
	小中学生の登下校時に立哨を実施
	周辺地区への説明会を実施 （造成前、工場着工前、稼動前、動線切り換え前）
	周辺地域のイベント（祭り、マラソン大会等）への参加
環境にやさしい工場づくり	もともとの植生を考慮し、工場建設時に樹木を移植し保護
	住宅地に届く騒音を低減するため、敷地内外において対策を実施
	再生可能エネルギーを利用する設備の導入等による省エネ・省資源対策
	ラウンドユース活用による物流便数の低減 ラウンドユース： 荷物運搬後、空になったコンテナに荷積めし、再度運搬に利用すること

3 取り組み事例：地域貢献に向けた取り組み

商用車メーカーとして、地域との共生を図るためには 『安全』への取り組みを欠かすことはできません。その最大のポイントは、古河工場の周辺道路を通学路として利用している子どもたちへの取り組みでした。『地域の次世代を担っている子どもたちは地域にとっての宝物』 という想いを持ち取り組んでまいりました。

工場に隣接する小学校の前にグリーンゾーン（緩衝帯）を整備

古河工場の北側には小学校が隣接しており、周辺道路は子どもたちの通学路になっております。より安全に通学してもらうために、古河市によるご協力のもと、小学校と古河工場の間に遊歩道を備えたグリーンゾーンを整備しました。

整備にあたってはほかに、小学校、およびＰＴＡ、さらには整備を担当頂いた茨城県開発公社など多くの方に多大な協力をいただき、実現することができました。

交通安全教室の開催

海外用コンテナトラックを間近で見る機会が少なかった地域の子どもたちに、交通事故の危険性を体感することを通じて、安全への意識を高めてもらうイベントです。

近隣の小学校・中学校の児童・生徒を対象に、実際にトレーラーを走行させ 『内輪差』を見てもらう『内輪差実験』、大型トラックの運転席に乗車し 『死角』の多さを知ってもらう『死角体験』をおこないました。内輪差実験の時には、子どもたちの驚きの表情が多く見られ、安全に気をつけることの大切さを伝えることができました。

トレーラー・ダミー人形を使用した
『内輪差実験』

大型トラックに乗車しての『死角体験』

通学時間帯の立哨活動

古河工場の稼動開始にともない、工場周辺の通学路を物流用の大型トラックなどが通行することとなりました。

それまでは、トラックの交通量がさほど多くはなかった通学路を海外用コンテナトラックなど大型トラックの往来がはじまることを受け、交通量などの環境変化への順応と注意喚起を目的に工場周辺の交差点にて、児童の登下校の時間帯に立哨活動をおこなってまいりました。

安全への取り組みに終りはありません。「安全はすべての業務に優先する」という日野自動車の安全基本理念に基づき、地域の皆さまに安心していただける環境づくりに今後も努めてまいります。

4 取り組み事例:環境にやさしい工場づくり

商用車メーカーとして地域住民への配慮を考えるうえで、『環境』に関する取り組みも不可欠です。

工場建設時の周辺環境配慮

もともと、古河工場の敷地内には多くの樹木が植生し、地域住民の皆さまに親しまれておりました。それらの樹木は工場建設にともない伐採する必要がありましたが、専門家の樹木医のアドバイスを受けながら、桜や古河市の木であるケヤキの中から樹勢のすぐれた樹木約５０本を選定し、古河工場の景観づくりに活用するため、移植をおこない、大切に保護しております。

また緑豊かな古河市に工場ができることにより、周辺環境に影響を与える可能性も考えられます。その影響を軽減するため、前述のグリーンゾーン整備など、インフラ面においても周辺環境に溶け込むための取り組みもおこなってまいりました。

加えて地域住民への配慮という点でとくに注力してきたのが、『騒音対策』です。
騒音については、工場が地域住民に与える影響のひとつで、計画段階からとくに重要視してまいりました。
発生する稼動音が地域住民の方々の居住地まで届く前に騒音値自体を低減させるため、古河工場では工場と周辺住宅地との距離を十分に確保いたしました。

環境への取り組みは企業の社会的責任と言えます。地域に溶け込んで事業を行っていくために、欠かすことのできない取り組みのひとつです。今後も地域住民への配慮を忘れずに、環境にやさしい工場づくりを推進していきます。